前田　治　議員

質問1　条件不適土の存在を隠していたのでは

市長　風評被害を考慮し判断した

問　新幹線トンネル工事に伴い、掘削土から環境基準の最大270倍にも及ぶヒ素が検出され、10月15日以降、工事がストップするという事態になっています。

以下の点についてお伺いします。

(1)条件不適土が出現したのが平成30年10月だったにもかかわらず、鉄道・運輸機構から市に報告のあったのが令和元年7月となっています。これほど重要な問題が9カ月にもわたって報告を怠ったことへの市長の認識について

(2)市は、条件不適土の存在を知っていたにもかかわらず、議会にも市民にもその事実を隠していたことに、市民から不信感を持たれ、不満が数多く出されているが、市長の認識について

答（市長）(1)鉄道・運輸機構により安全に管理されている状況にあり、直ちに市に報告しなければならない事案ではなかったものと認識しています。

(2)今後の処理方針の決定前の段階で公表することは、市民の不安や危機感をあおる結果となりかねないので、風評被害の発生なども考慮し、適切ではないと判断したものであり、また、この件についての市民からの不信や不満は、一切聞いていません。

一方、一部の市民等による科学的根拠に基づかない不適切な情報の流布により、風評被害の発生などを大変憂慮しているところであり、厳に慎んでいただきたいと考えています。

問　私たちは、ヒ素のもたらす影響が非常に大きなものだという認識をしています。

ヒ素は水や空気に触れた途端に亜ヒ酸という猛毒に変わる。これは専門家の理論的な裏づけがあります。亜ヒ酸の毒性は、青酸カリ同等以上のものだと言われています。それを根拠のない風評被害と片付けられたら非常に残念です。

副市長も言われているように、第三者機関等を通してしっかりと検証している、心配ないと説明をしてきていますが、その知見がすべてではありません。それをお互いに勉強し合おうとならないのでしょうか。そういう姿勢を持たれてはどうか。

答（副市長）お互い話合いましょうと言いますが、相当ご説明しているのに、何一つご理解いただいていません。どうやって歩み寄りを取ればいいのか、何ともお答えしようがないというのが正直なところです。

鉄道・運輸機構のほうはマニュアルに沿って、きちんとした機関、大学の先生等12名の第三者委員会のメンバーで結論を出し、環境基準以下に収まる対策工によって、安全だと答えを出していただいています。このやり取りを何回もしています。どういうふうに歩み寄りを得るのか、私はちょっとお答えできません。

条件不適土が仮置きされている天狗仮置き場

質問2　市民の新型コロナ感染状況は

市長　道の公表では感染者10名

問　新型コロナウイルス感染拡大は、第2波までとは比較にならないほどの広がりを見せ、北斗市内での感染拡大が現実のものとなってしまいました。

以下の点についてお伺いします。

(1)北斗市民の感染状況について

(2)さらに感染拡大する恐れもあるが、PCR検査可能数、入院可能ベッド数、軽症者受け入れ施設の確保状況について

(3)インフルエンザワクチンの接種状況及びワクチンの確保について

答（市長）(1)居住市町村名の公表について同意を得て、北海道が発表した情報としては、12月8日現在、北斗市民の感染者は10人となっていますが、そのほかに複数名の感染者がいるとの情報を得ています。

(2)渡島管内で、検査可能数は1日当たり500件程度となっており、入院可能ベッド数は181床、軽症者受け入れ施設については、東横イン函館駅前大門の1施設110人が確保されています。

(3)10月の実績で約8千件の接種となっており、11月も同程度と見込んでいます。

また、ワクチンの確保については、全国的に不足している旨の報道がされており、その確保については、各医療機関に委ねるしかない状況ですが、今後の入荷予定もあると聞いていますので、市では、引き続き最新の情報をホームページに掲載し、市民の皆さまへお知らせしていきたいと考えています。